平成28年秋季特別展・白山開山千三百年記念プレイベント

福井の仏像　白山を仰ぐ 人々と仏たち

●主　催／福井市立郷土歴史博物館
●会　場／企画展示室
●会　期／平成28年10月14日（金）～11月23日（水・祝）

冬から春にかけて、福井平野からはその東方に神々しく輝く白山を見ることができます。はるか昔よりこの地に住む人々から仰がれてきた霊峰白山は、仏教が伝来し広まっていくにしたがって仏が住まう浄土と考えられるようになり、白山を遥拝することのできる地には寺院が開かれ白山信仰の拠点となっていきました。福井平野とその周辺の里山ではこのような信仰環境の中で造られた仏像が、戦乱や廃仏の危機をのりこえて今なお篤く敬われ、人々の信心のよりどころとなっています。

本展では、泰澄大師が白山を開山したとされる養老元年から平成29年で1300年になるのを記念し、白山遥拝の地や文殊山・日野山など在地の霊山周辺に祀られる仏像を一堂に展示し、この地における人々の信仰の歴史を紹介していきます。

聖観音立像　越前市荒谷観音堂

聖観音立像　坂井市三国町西光寺

千手観音立像　越前市余川神明神社

薬師如来立像　福井市高尾薬師神社

聖観音立像　福井市西光寺

広目天像　福井市二上観音堂

聖観音坐像　越前市味真野神社

聖観音立像　越前市領家八幡神社

聖観音立像　坂井市三国町円海寺

出品目録

No.	指定	名称	員数	制作年代	所在地	
1	□	大日如来坐像	一躯	一五九・六	平安時代　十二世紀	滝波五智如来堂　福井市滝波町
2	□	薬師如来坐像	一躯	九〇・四	平安時代　十一世紀	滝波五智如来堂　福井市滝波町
3	□	宝生如来坐像	一躯	九一・五	平安時代　十一世紀	滝波五智如来堂　福井市滝波町
4	□	阿弥陀如来坐像	一躯	九七・〇	平安時代　十一世紀	滝波五智如来堂　福井市滝波町
5	□	釈迦如来坐像	一躯	八七・三	平安時代　十一世紀	滝波五智如来堂　福井市滝波町
6	□	大日如来坐像	一躯	五九・五	平安時代　十一世紀	観音寺　福井市浜北山町
7	△	薬師如来立像	一躯	一〇九・〇	平安時代　十二世紀	薬師神社　福井市高尾町
8	△	薬師如来坐像	一躯	八三・五	平安時代　十二世紀	帆谷薬師堂　福井市帆谷町
9		薬師如来坐像	一躯	七三・九	平安時代　十二世紀	愛染寺　福井市国山町
10	□	聖観音立像	一躯	一〇四・〇	平安時代　十世紀	加多志波神社　鯖江市川島町
11		聖観音立像	一躯	一四六・六	平安時代　十世紀	西光寺　福井市左内町
12		聖観音立像	一躯	一〇二・四	平安時代　十一世紀	西光寺　坂井市三国町南本町
13	△	聖観音立像	一躯	一五二・五	平安時代　十一世紀	法承寺　福井市飯塚町
14	△	聖観音立像	一躯	一六三・五	平安時代　十一世紀	八幡神社　越前市領家町
15		聖観音立像	一躯	九〇・五	平安時代　十二世紀	天龍寺　永平寺町松岡春日
16		聖観音立像	一躯	一〇二・〇	平安時代　十二世紀	円海寺　坂井市三国町新保
17	□	聖観音立像	一躯	一七〇・〇	平安時代　十二世紀	荒谷観音堂　越前市荒谷町
18	△	聖観音坐像	一躯	九五・五	平安時代　十二世紀	味真野神社　越前市池泉町
19		十一面観音立像	一躯	一〇二・七	平安時代　十世紀	長運寺　福井市照手
20	□	十一面観音立像	一躯	一六七・一	平安時代　十一世紀	八幡神社　越前市東庄境町
21		十一面観音立像	一躯	一〇七・〇	平安時代　十二世紀	坂井市内寺院
22		十一面観音坐像	一躯	三二・一	平安時代　十二世紀	越前町内寺院
参考	◎	十一面観音立像（写真）	一躯	一八七・〇	平安時代　九世紀	二上観音堂
23	△	多聞天像	一躯	一三八・五	平安時代　十世紀	二上観音堂　福井市二上町
24	△	広目天像	一躯	一四三・六	平安時代　十世紀	二上観音堂　福井市二上町
25	□	千手観音立像	一躯	一二八・八	平安時代　十世紀	神明神社　越前市余川町
26	△	千手観音立像	一躯	一三九・五	平安時代　十二世紀	安泰寺　越前市池泉町
27	□	虚空蔵菩薩坐像	一躯	四九・三	平安時代　九世紀	大滝神宮堂　越前市大滝町
28	◎	菩薩形坐像	一躯	一二五・〇	平安時代　十二世紀	八坂神社　越前町天王
29	□	文殊菩薩坐像	一躯	一四五・五	平安時代　十一世紀	大安禅寺　福井市田ノ谷町
30	□	勢至菩薩立像	一躯	一〇三・四	鎌倉時代　十三世紀	原勢至堂　鯖江市中野町原
31	△	多聞天像	一躯	九六・五	平安時代　十一世紀	不老神社　越前市不老町
32	△	持国天像	一躯	一〇一・〇	平安時代　十一世紀	不老神社　越前市不老町
33	□	僧形神像	一躯	四六・一	平安時代　十世紀	泰澄寺（当館保管）　福井市三十八社町
34	□	十一面女神像	一躯	六二・八	平安時代　十二世紀	八坂神社　越前町天王

※指定の記号は◎が重要文化財、□が福井県指定文化財、△が各市町村指定文化財を表します。

関連行事

ギャラリートーク
（担当学芸員による展示解説）

■日時：毎週水曜日と
10月15日（土）
10月29日（土）
11月12日（土）
11月19日（土）
14時より約40分間
■会場：特別展会場

連続見どころ講座
「福井の仏像入門」全5回

■日時：10月14日（金）「仏像の基礎知識」
10月21日（金）「福井の薬師如来像」
10月28日（金）「福井の観音菩薩像」
11月4日（金）「神社に祀られる仏像」
11月11日（金）「泰澄大師と仏像」
14時～15時半
■会場：講堂
■講師：藤川明宏（当館学芸員）
■定員：80名（聴講無料・当日会場受付）
14時より約40分間

ワークショップ
「はんこで再現!仏像のすがた」

仏像はんこをおしてオリジナルポストカードを作りながら、仏像のすがたについて学びましょう。

■日時：11月13日（日）
13時30分～、14時～、15時～、15時30分～
各20分程度
■会場：講堂
■定員：各10名
（10月17日から電話または窓口受付、先着順）
■参加費：100円

「展示解説シート　No.99」
平成28年10月14日発行
福井市立郷土歴史博物館
〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1
電話 0776-21-0489　FAX 0776-21-1489　担当：藤川明宏

仏像用語図解　菩薩・立像

髪際（はっさい）
頭髪と額の境目のこと。天冠台の下から額にかけての頭髪を指すこともある。

耳朶（じだ）
耳たぶのこと。耳たぶが大きく環状に穴が貫通した状態で表わされることが多い。

三道（さんどう）
仏の特徴の一つで、首に3本のしわが表される。

上膊（じょうはく）
肩から肘までの腕を指す。

前膊（ぜんはく）
肘から手首までの腕を指す。

手首先（てくびさき）
手首から先は別材で作って接合する事がほとんどで、後補が多い。

足先（あしさき）
手首先と同じく別材で作って接合する事がほとんどで、後補が多い。

聖観音立像（加多志波神社）

髻（けい（もとどり））
髪を結い上げた状態のこと。形によって単髻、垂髻、螺髻などと分類される。

天冠台（てんかんだい）
はち巻きのように頭部に巻きつける飾り。本像のように上に宝冠を戴くこともある。

条帛（じょうはく）
左肩から下げ右脇を通り一周りさせて左胸で結ぶたすき状の布のこと。

天衣（てんね）
両肩から下がり、両膝の上下を渡り、両腕に掛かって垂れ下がる細長い布のこと。

腰布（こしぬの）
腰に巻く布。

裳（裙）（もくん）
下半身を覆う巻きスカート。上端部を折り返して正面に垂れ下げる。

仏像の構造を表す用語

一木造（いちぼくづくり）	仏像を一本の木材から丸彫りする造り方。肩から先や脚部などを別材で作って接合する場合も、頭から身体にかけての根幹部材が一木である場合は、一木造に含める。
一木割矧造（いちぼくわりはぎづくり）	仏像を一本の木材から彫り出す際に、前後、または左右に材を割り裂き、内刳りを施してから仕上げを行う造り方。三道の下から割り裂いて頭部を仕上げる「割首（わりくび）」という手法も行われた。
寄木造（よせぎづくり）	数本の木材を組み合わせて仏像を彫り出す造り方。当初は丈六像のような大きな仏像を造る際に用いられた手法だが、鎌倉時代以降は小像にも応用された。

仏像用語図解　如来・坐像

肉髻（にっけい）
仏の特徴の一つで、頂上の肉が隆起して一段盛り上がっている。正面中央に肉髻朱が表わされることもある。

螺髪（らほつ）
一本一本の毛が小さく螺旋状に丸まっている状態の髪

三道（さんどう）
仏の特徴の一つで、首に3本のしわが表される。

袈裟（けさ）
一枚の長い布を左肩に掛けて全身に巻きつけ衣とする。右肩を露わにする、または袈裟の一部を少し掛けている状態を偏袒右肩（へんだんうけん）という。

裳（裙）（もくん）
下半身を覆う巻きスカート。

薬師如来坐像（愛染寺）

白毫（びゃくごう）
仏の特徴の一つで、眉間に渦を巻いた白い毛がある。彫像の場合は水晶をはめて表わされることが多いが、本像のように表されないこともある。

耳朶（じだ）
耳たぶのこと。耳たぶが大きく環状に穴が貫通した状態で表わされることが多い。

上膊（じょうはく）
肩から肘までの腕を指す。

前膊（ぜんはく）
肘から手首までの腕を指す。

手首先（てくびさき）
手首から先は別材で作って接着する事がほとんどで、後補が多い。

脚部（両脚部）（きゃくぶ）
両膝部ともいう。体幹部とは別の横一材で作って接合することが多い。

仏像の製作技法を表す用語

矧ぐ（はぐ）	接合すること。肩、肘、手首先や脚部などで別に作った材を接合した状態を表す言葉。接合は、ほぞ差しとする場合や、にかわ、漆といった接着剤を用いる場合がある。
内刳り（うちぐり）	木心を含む材を使うと、干割れが生じるおそれがあるので、木材の内部を刳り抜いて空洞とする。一木造の場合、背中から長方形に刳り出すことを「背刳り」とも言う。
彫眼と玉眼（ちょうがんとぎょくがん）	仏像の目を彫って表現するのが彫眼。平安時代末期には、目の部分を刳り抜き、内部から水晶をあて表現する玉眼の手法が確立した。鎌倉時代以降は玉眼が多く用いられるようになる。江戸時代には仏像修理の際に彫眼を玉眼に改造することも頻繁に行われた。